

第二次能美市総合計画 第3回基本構想策定審議会

議事概要

日時：平成28年11月18日（金）13：30～15：30

場所：辰口福祉会館 多目的ホール

－ 議事次第 －

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 審議事項
 - （1）横糸プロジェクトについて
 - （2）前回からの修正について
 - （3）策定スケジュールの変更について
 - （4）中間答申について
5. 閉会

<会議風景>



■議事概要

(1) 横系プロジェクトについて

◆委員

- ・ 3 番目の項目について、「救急医療機関」だけでは地域医療は支えられないことから、日常的に医療・介護・福祉に携わる人々（仕事）に触れておくべきである。

◆委員

- ・ 横系プロジェクトはとても良いネーミングにされたと思う。一方、これらがどのように具現化されるのかを考えた場合、7つの政策分野それぞれが個別に施策を進めていくのか、あるいは分野横断的な体制をつくってプロジェクトを具体的に進めていくのかがよくわからないので、もう少し具体的に説明してほしい。

◆事務局

- ・ 関連するテーマごとに関係課が連携して取り組むことを想定している。

◆委員

- ・ 横の連携を円滑にするためのより具体的な案はあるか。

◆事務局

- ・ テーマの大きさにもよるが、庁内でプロジェクトチームを組むこともあるため、必要に応じてそのような対応が可能である。また、職員間のコミュニケーションが最大のカギとなるため、積極的な情報共有を図っていきたい。さらに、総合計画に掲げた各種施策については、現在見直し作業中の行政評価システムを活用し、連携の進み具合を評価しながら進めていきたいと考えている。

◆委員

- ・ 計画策定後に時間が経過すると、各分野が連携せず別々に進めているということになりかねない。例えば「横系プロジェクト連絡会」を立ち上げて定期的かつ横断的に進めるなど、横の連携を円滑にする仕組みを具体的な形で考えてほしい。

(2) 前回からの修正について

◆委員

- ・ 前回、指摘があったように、能美市が有する素晴らしい観光資源の活用や、それに対する市としての投資については、計画に反映されているのか。

◆事務局

- ・基本計画 P132-133 の「里山・自然環境の保全と活用」に盛り込んでいる。具体的な取り組みまでは記載できていないが、例えば「里山景勝地・里山散策路の保全と活用」や「里山資源の有効活用と仕事づくり」などに包含されるものと考えている。

◆委員

- ・ご指摘が場所も示した具体的なものであったし、動物園や温泉も活かしていかにか金沢から多くの人を呼び込めるかが観光面の大きなカギとなるため、魅力を少しでも高めて一度来た人がまた来たいと思えるように、また周りの人に能美市の良さを伝えてもらえるような施策が必要である。
- ・先端大ではご高齢の方に大学内の清掃を仕事としてお願いしている。ボランティアだけではなく、ご高齢の方々の健康増進という意味も含めて、整備事業等を計画するということも考えられる。仲井委員からのせっかくのご指摘であったことから、その解決に向けてもう少し配慮していただきたい。

◆委員

- ・基本計画 P77 の「③発達に心配がある子どもの支援の充実」の主な取り組みとして様々な支援策が挙げられているが、そういった子どもたちに対する理解の促進といった啓発面の取り組みも必要ではないか。周りから理解されることで救われることもあるため、啓発に力を入れることも大きな支援になる。

◆委員

- ・大切なご指摘かと思う。可能であれば具体的な施策として書き込んでいただきたい。

◆委員

- ・基本計画 P76 の「①子育て家庭に対する支援の充実」について、「放課後児童クラブの役割・機能の充実」は大事だと思うが、充実の前に見直しが必要ではないか。児童クラブに入る子どもが多く。スペースやスタッフの問題があり、今後の方針について見直しを行いながら充実させていくというステップが必要だと思う。「見直し」という言葉も入れておくべきではないか。

◆委員

- ・「見直し」というと今あるものを削る方向になりがちであることから、充実を目指す中で当然見直しは行われるはずである。充実の中身をよく検証していただくこととし、あえて「見直し」という言葉は入れなくても良いのではないか。

◆委員

- ・承知した。放課後児童クラブがどんどん増加しており、保護者の認識と行政側の対応

のバランスを確保していかなければならないと思う。

◆委員

- ・その点については、広報活動等の中でも市の方で意識していただき、充実の中身についても検討していただきたい。

◆委員

- ・基本計画 P65 の「③外国人への対応及び自立支援」について、「自立支援」というのは何を指しているのか。また、「②国際理解活動の推進」にも「国際交流団体との連携」を入れなければいけないと思うがどうか。

◆委員

- ・外国人の大部分は先端大の留学生だと思う。一例として、大分市の立命館アジア太平洋大学ではほとんどが留学生だが、地域の生活の中に入り込んでいっている。地域の活性化に役立っていることから、先端大でもそのようにしていきたい。留学生との交流機会を増やし、能美市の国際化、子どもたちの国際化に何とか貢献していければよいと常々考えている。「自立」については、卒業後に地域企業へ就職するよう勧めている。そのために、留学生の日本語教育を徹底的に見直しているところであり、より地域の方々と交流しながら、できれば地域の企業に就職してもらいたいと考えている。

◆市長

- ・先端大や小中学校と連携しながら国際理解の場の提供に取り組んでいるところである。先日も韓国から学校関係者が来られたが、素朴に「能美市に来て良かった」「参考になった」と言っていたように見える。このような国際理解の場の提供にも取り組んでいきたいと考えている。

◆委員

- ・ベトナムや中国、韓国から結婚して来られた方々や仕事で来られる方々もいる。外国人の中には、先端大の留学生だけでなくそのような方々も含んでいるのか。

◆委員

- ・おそらく含んでおられると思うが、もし市の方で日本語教育が十分受けられないのであれば、ぜひ先端大にお越しいただきたい。ぜひ先端大を使い倒していただきたい。
- ・先般、中学校の校長先生3名、小学校の校長先生8名と対談させていただいた。その際は科学教育に関する意見交換であったが、次の機会には、どうすれば先端大の留学生との交流機会をもてるのかということを議論したいと思う。そうすれば、外国人との接し方や、外国人を親にもつ子どもたちとの接し方なども話し合えると思う。

◆委員

- ・基本計画 P72 の「地域の在宅支援の充実」について、私は生活支援サービス推進協議会の立場でこの会議に参加させていただいており、様々な方が参加されている中、地域包括ケアを見据えた様々な主体間の情報共有の重要性を実感している。主な取り組みの中に、情報共有の場の充実ということも盛り込んでいただきたい。

◆健康福祉部長

- ・医療利用者、介護利用者などの情報共有はこれまでも実施していることから、さらなる充実を図っていきたい。

◆委員

- ・確実にやっていただけたと思う。もしそのような場が必要であれば、市の方にご要望いただきたい。

◆委員

- ・2章についてももう少しわかりやすくするために、2-1は共助や公助、2-2や2-3は自助・公助＋互助のような形となっている。そこをはっきりさせたほうがわかりやすいと思う。

◆会長

- ・ご指摘を踏まえて、わかりやすくする方向で検討していただきたい。

◆委員

- ・市内の分娩施設がなくなるということについてどのように思われるか、印象をお聞かせいただきたい。

◆委員

- ・医師不足が原因なのか。

◆委員

- ・医師の高齢化も要因のひとつだが、助産師の教育体制が変わり、分娩が年間 100 以上ないとキャリアを上げられないことから、魅力的な場所ではないということになっている。

◆健康福祉部長

- ・先日、このお話をうかがい、大きな宿題をいただいた。病院としてもご尽力をいただく一方、自治体としてもできることを考えていかなければならないと思っている。

◆市長

- ・先日お話をうかがいショックを受けている。人口5万人の能美市に（分娩施設が）ないということはあってはならないという危機感をもって、対応策を検討するよう指示している。

◆委員

- ・思い浮かぶことは、娘が能美市に帰ってきて出産するということができなくなる。それから、緊急事態に対応できなくなる。この2つだけでも大問題であり、何とか解決策を見出していただきたい。

◆市長

- ・議会とも連携しながら方策を検討していきたい。

（３）策定スケジュールの変更について

◆会長

- ・修正した計画は、後日委員の皆様に送付するなどして確認していただくということは可能か。

◆事務局（谷田課長）

- ・そのように対応させていただく。

◆会長

- ・パブリックコメントが始まる12月中旬までに、市長のほうへ答申するという形になるが、皆様よろしければ、修正箇所を各自ご確認いただくというステップを踏んだ上で、最終的には私の方で仕上げて12月中旬に市長のほうに中間答申させていただきたいと思うがよいか。 → 異議なし

◆委員

- ・総務常任委員会でもたくさんの意見が出た。5.8kmの白砂青松の海岸を有しているということで基本構想の中についかしていただいたことが一つ。そして、商業施設についても基本構想の中に含まれているということで委員の理解を得た。また、前回の審議会で出された「能美市の顔づくり」についても、今後の社会の変化を見据えながら、市の核を整備していかなければならないという方向で理解を得た。今後、議会の委員長として報告もしなければならないと思うが、3月議会における満場一致での議決に向けて、委員長として努力していきたい。

◆会長

- ・たしかに海側の記載が弱かったかもしれない。「顔づくり」については、単に市役所を動かせばよいということではなく、能美市の将来を鑑みたときに何がどこにあるべきかという議論をしていく必要がある。能美市の発展に向けてどうあるべきかをぜひご議論いただきたい。
- ・特にご意見がないようであれば、以上で本日の審議を終了する。

◆事務局

- ・今後の予定については、12月中旬に寺野会長から市長へ中間答申が行われた後、1カ月間のパブリックコメントを実施し、その結果を受けた最終案を来年3月の審議会でお諮りしたいと考えている。目途がつき次第、開催通知にてご案内させていただく。

－ 以 上 －